

| | | | |
|---|--|---|------|
| 科目名：口腔解剖学 | | 必 | 2 単位 |
| (Oral and Dental Anatomy) 履修年次/時期：1 年次 前期 授業形態：講義 担当教員：松尾智子(実務経験有) | | | |
| 学修目的 | 歯科衛生士になるためには正常な顔面・口腔の形態を知らなければなりません。ユニット『歯の形態』では、ヒトの歯のかたちを学びます。歯の形態は、咬合・咀嚼・嚥下のはたらきと密接に関連しています。ユニット『口腔解剖』では咬合回復に必要な形態と口腔と顔面の基本的な構造を学びます。顎顔面の基本を構成する骨と筋、それらをコントロールする神経と血管について学びます。これらを総合的に理解することで歯科衛生士としての入口に立てる知識と技術を学びます。DP 1(1),2(2),3(1) CP 2,3,4,6 に関連する。科目 No.S1B05H12 | | |
| 到達目標 | ①歯の方向用語を説明できる。歯式と歯の記号を説明できる。 ②切歯と犬歯の形態と構造を説明出来る。 ③小臼歯の形態と構造を説明出来る。 ④大臼歯の形態と構造を説明出来る。 ⑤歯の形態異常について説明できる。 ⑥乳歯の形態と構造を説明出来る。 ⑦歯列と咬合について説明出来る。 ⑧口腔の基本構造と機能を説明出来る。唾液腺と舌の構造を説明出来る。 ⑨顎顔面を構成する骨を説明できる。顎関節の構造と下顎運動を理解できる。 ⑩表情筋・咀嚼筋・前頸筋の構造と作用を説明出来る。下顎運動に必要な顎関節の構造と作用を説明出来る。 ⑪外頸動脈から分岐する枝の走行と分布域を説明出来る。口腔に分布する静脈とリンパの流れを説明出来る。 ⑫上顎神経の経過と支配域を説明出来る。 ⑬下顎神経の経過と支配域を説明出来る。 ⑭顔面神経の経過と支配域を説明出来る。 ⑮舌咽神経、舌下神経、迷走神経の経過と支配域を説明出来る。 | | |
| 授業概要 | 歯科衛生士になるため必要な、歯と顎顔面の形態についての知識を学修する。科目を 2 つのユニットに分け、歯の形態、口腔の構造から構成する。これらの知識から咬合・咀嚼・嚥下に必要な形態と機能を理解する。 | | |
| 評価方法 | 本試験（ユニット歯の形態 50%/ユニット口腔の構造 50%） 試験に対するフィードバックは掲示で行う。 | | |
| 予習・ 復習時間 | 【予習】 2.0 h 【復習】 2.0 h | | |
| 教科書 | [A] 最新歯科衛生士教本（医歯薬出版） [B] 口腔顎顔面解剖学ノート(学建書院) | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業内・掲示板・ポータルサイトで講師が指示します。 | | |
| オフィス- 連絡先 | 講義前後 15 分 口腔解剖学第二研究室(第二研究棟5階) 随時(メールにて連絡を下さい。松尾(智) matsuo@kdu.ac.jp) | | |